

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200223		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	グループホームいりやあせ (2階ユニット)		
所在地	愛知県名古屋市南区源兵衛町1丁目6番地		
自己評価作成日	令和 2年 8月31日	評価結果市町村受理日	令和 3年 6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2391200223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が、地域社会と繋がりを持って、普通の人と変わらない生活を送ることを理念とし、「地域社会と繋がり、あたりまえの生活ができる場所」と方針を定めている。職員もそれを理解し、行きつけの喫茶店や、古くからの友達との交流など、一人一人の大切な社会との繋がりを、施設で暮らしていても提供することを大切にしている。
昨年度1ユニット7名の施設から、1ユニット9名と移転拡大されたが、移転したからこそそのメリットを生かし、新たな地域との繋がりが、近隣施設を活用したサービスを現在目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年2月にホーム移転を行い、新拠点での活動を始めている。「新しい魅力を作っていく」を目標に、他施設や地域との連携強化に取り組み、今年度は「津波避難所」として指定を受けた。被災時における地域住民の受け入れを可能にし、ホーム利用者のみならず地域にも今まで以上に貢献・協力するという意気込みと、意識の高さが伺える。
職員の入れ替わりは少なく、人員は安定している。法人ISOの職場目標達成を目指し、管理者・職員は自己啓発やホーム発展に励んでいる。コロナ禍においても法人の方針にて家族の面会制限はかけず、検温や体調確認など感染対策を徹底し、面会を継続している。この一年間退去もなく、移転による動揺もなく、利用者の落ち着いた生活の様子からも、対応力の高い組織であることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月の時点で、職場目標を職員全員で確認し、具体的に一人一人が「業務時間内」にどのように行動するかを決定し、期首・中間・期末で面接を行い振り返っている。	ISOの職場目標を掲げ、達成に向けた個人目標を年3回の面談で検証している。「今後も仕組みづくりを強化していきたい」との管理者の思いもあり、体制作りには余念がない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区のお祭りへ参加したり、散歩・買い物・美容院などに出掛けることで、地域とのつながりが持ち続けられるような支援をしている。地域との交流企画も行っている。	コロナ禍により、地域の行事・祭事やボランティア、組合員交流等、全てが中止になり、加えてホーム移転に伴う内覧会も中止となった。「生協の強みが出せない」状況下、地域住民との交流再開、関係構築に向けて準備をしている。	移転後の地域交流・連携については、コロナ終息が待たれるところではある。地区を移動し、ゼロからの出発となるが、ノウハウを活かした早期の関係構築に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所が集まり、地域の住民に向け発表会をするなど認知症の理解が進むよう行動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行なっている。移転してから、幅広い方に来ていただくことは課題として残っている。	コロナ禍により参加者の減少はあるが、通常通り2ヶ月毎に会議を開催している。時節柄、地域包括支援センターの参加が難しい為、意見書により意見聴取を行い、連携している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の移転を昨年度2月に行った。その際、一から市町村と施設の見直しを行った。	市の担当部署とは、ホームの運営整備や、津波避難所の指定登録の協力案件、地域との連携等々で連絡を取り合っている。コロナ禍により、ホーム移転の内覧会にも来訪予定であったが、中止となった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3ヵ月に1度開催している。これも身体拘束にあたるのかなど、より良いサービスを目指し、検討をしている。	管理者とリーダーを委員として、3ヶ月毎に委員会を開催し、事例検討を行っている。討議した内容は、月1回の職員会議の際に、各職員に周知し、話し合っている。法人の身体拘束「0」宣言の下、職員の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年2回虐待の学習会を行うと共に、身体拘束適正化委員会で、虐待についても毎回検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習をしている。今後必要になる可能性のある方、そのご家族様には、管理者より助言している。時には法人弁護士に介入して頂くときもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの場を持ち、理解しあった上で契約、終了書を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便り、面会時に日頃の様子を伝えることで、意見や要望が出てくるため、フロア会議や職員会議にて情報共有・反映させている。また、ご意見箱を設置し、意見を頂いている。	利用者の日常の様子を、毎月の個人便りで伝え、意見や希望を出しやすい環境を作っている。家族の意向・希望は、来訪時や電話で聞き取り、収集した情報は、職員周知で、運営や支援内容に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・職員会議などで、提案討議する機会を設けている。	月1回、ケア内容の話し合いを行うフロア会議の他に、ホーム運営関係の討議を行う全体会議も行っている。個人面談は年3回行い、職員の意見を聞く機会が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が年3回の面談を実施している。必要者については、適宜機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習会については、参加を呼びかけるなど、学びあえるような雰囲気作りを心がけている。また、個々の力量に応じた研修に参加できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の介護職の交流会や症例発表、介護の実習生の受け入れなどを行なっている。また経歴に応じた研修制度がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時は、家族だけでなく本人にも来ていただきどんな場所か知っていただくようにしている。入所時は、環境の変化に戸惑いも多いので、面会や家族との電話機会を多めに取り、安心できるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもアセスメントを記入してもらったり、面談時の要望などをケアに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前申込時に、現在の状況を把握する事に努め、他のサービスが適切と判断できた場合は、他のサービスの説明を行なうなど、本人・家族にとって最良の選択ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や、風習など利用者から学ぶことも多い。レクや行事は、要望を聞きながら職員も一緒に楽しめるような計画を立てている。ADLが低下してきた利用者様にも役割を実感してもらえるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話などで出来るだけ近況をこまめに伝えるようにしている。状況に応じて、カンファレンスを開いたり訪問の依頼などもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に友人と喫茶店に行ったり、今までの関係が維持できるよう支援している。ご家族様・ご友人など、ご本人様のより良い生活の為に、多様な人々に支援して頂けるよう心がけている。	地域からの利用者が多く、利用者の親戚が経営している喫茶店の利用や、馴染みの店への買い物、近所の人の来訪など、コロナ禍であっても支援を継続している。今後、利用者が地域の人と一緒に外出できる機会を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動や行事の中で、利用者同士が協力し合ったりする機会は大切にしているし、職員もきっかけが作れるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームから特別に働きかけはしていないが、入院の為退去した方が、再申し込みをして下さったり、退去後にホームでの生活の写真が欲しいと、家族が足を運んでくださり近況を伺ったりした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各スタッフが、日常の会話の中から想いや希望を引き出している。フロア会議では、利用者様より良い生活の為の情報交換、決定ができています。	利用者の思いや希望の聞き取りは、日常の何気ない会話やアセスメント時に行っている。収集した情報は、フロア会議の際に職員間で共有し、支援内容に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りや、ホームでの生活の中で把握できたことなど記録に残している。アセスメント用紙も定期的に見直しを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌経過記録や、申し送りノート、ケアプランを活用し職員全員が把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人からの聞き取りや、生活の中から情報を収集し、スタッフ間で話し合う機会を持っている。	毎月のケアカンファレンスで利用者の状態把握に努めている。変化があった際は、サービス担当者会議を開催し、家族の意向と医師の意見を確認している。介護計画は6ヶ月毎に更新を行い、アセスメントを取り直して、本人・家族の意見を聞き取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を表情や言葉など細かく観察して記録に残すようにしている。フロア会議でケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険を活用し、訪問マッサージを活用、歯科往診を活用するなど、介護保険外のサービスも活用し、利用者様の生活を支えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や町内祭りなどに参加するだけでなく、地域の組合員や、地域の喫茶店などを活用し、新しいつながりを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について説明し、納得の上で主治医についてはホームのかかりつけ医に変更してもらっている。眼科などはそれまで通っていた所へ、通い続けられるような支援もしている。	ホーム移転に伴う協力医の変更はなく、馴染みの継続となっている。医療連携の訪問看護も継続し、健康管理に努めている。専門医への受診は、家族対応としている。母体が医療法人であることの信頼は大きい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションみなみとの連携により24時間訪問看護を受けられる。週1回の定期訪問がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に提携病院があり、家族とともにカンファレンスに参加できるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をとることで、看取りが可能になった。今までで5例の看取りを行った。法人で共有の看取りの指針もでき、訪問看護と連携し学習会を行なうなど、強化にあたっている。	本人・家族の意向に沿って、医療介入のないホームでの看取り対応は可能である事を説明している。法人内で勉強会を行い、いつ看取りの状態となっても対応可能な体制であるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を明確にした。その他事故発生時の医療連携についても、マニュアルを整備し、実行してもらっている。急変時の対応は、訪問看護の学習会で毎年行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。移転後新に津波避難ビルの指定を行った。地域住民を交えての避難訓練を検討している。	年2回の避難訓練を実施している。移転後のホームの立地を活用し、地域住民の「津波避難所」として登録を行った。今後、避難時における食料など備蓄品の準備を始めるとともに、地域住民と合同での訓練を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。ともに目指す介護理念にもうたっている。	法人研修や勉強会において、利用者の尊厳の保持、身体拘束防止などを学び、意識・考え方の統一に努めている。学びは実践の場で、利用者支援に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ思いを引き出すような努力はしている。外出の希望など、すぐに対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など大体の時間が決まっているだけで、その他は利用者が主体となって生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や、訪問理容だけではなく好みの美容院にいけるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから、調理、後片付けまで毎食一緒に行っている。できない利用者様でも、目の前で調理するなど、生活の雰囲気を楽しんで貰えるよう努力している。	配食サービスを活用し、多彩なメニューで利用者の楽しみに応えている。利用者は盛り付けや配膳など、できることを職員と共にしている。季節の行事食の楽しみもある。外食を自粛する分、ホーム内で楽しむ食事レクに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙を活用し、水分量や食事量を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理や、歯磨きの促しをしている。定期的に歯科往診を受け入れたり、必要時に歯科受診を行うなどしている。毎月歯科との連携を開始し、職員の口腔ケアの質も評価できるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄でのトラブルがあれば、排泄チェックをしてパターンを把握したり、話し合う機会をつくり、対策を考える。	トイレでの排泄支援を基本とし、利用者の状態や状況、排泄リズム等に合わせ、適切に対応している。ホームを移転したことで設備が整い、車いす生活の利用者への支援がしやすくなっている。支援方法は職員間で共有の徹底を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本人確認や、お腹の張り具合などを確認している。状況に応じて、水分摂取の促しや、便通に良い食べ物の提供、ケアプランへの反映などを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は午後に着しているが、それぞれの時間や曜日は特に決めておらず、毎日入浴してもらおう事が出来る。必要な方には、見守りや介助を行う。	週2回～毎日(希望による)の入浴を支援し、見守りや介助を行っている。基本的な入浴の時間は午後だが、要望があれば随時対応可能となっている。清潔保持の観点から、最低週2回の入浴ができるように入浴管理を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤の巡視は、嫌がる方には回数を減らすなど柔軟に対応して、安眠を妨げないようにしている。日中でも利用者様の様子を見て休息を促すなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに閉じて、用法や副作用などを確認できるようにしている。また薬の変更があれば必ず申し送りを行い、様子観察に努めている。内服方法も検討し、必要であれば医師・薬剤師に報告し対応してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが得意なことを中心に役割りが持てるような支援をしている。日々の活動や外出などの行事のほか、お墓参りなど、個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロア全体での外出機会や毎日の散歩に加え、個別での外出レクで日帰り旅行や、ご家族様も交えての1泊旅行なども行っている。	コロナ禍であっても外出を禁止とせず、感染対策を行った上で日課の散歩を継続している。家族外出で近場の外出を楽しむ利用者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はしてもらっている。職員管理の方でも、支払いの時は本人にさせていただくなど、状況にあわせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいたり、手紙や年賀状を出すような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に花を飾ったりベランダや中庭に、花や農作物を植えたりえと季節感を取り入れたり、居心地が良くなるような工夫をしている。	リビングは多様に物を設置せず、要所に花や手芸品を飾ることで、大人の暮らしの雰囲気を醸し出している。衛生環境にも気を配り、雑巾で床拭きをこまめに行い、清潔な空間を保持するように努めている。採光に恵まれ、利用者の活発な日中活動に役買っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でも、スペースが十分確保されており、自分の好きな場所に、自由に移動している姿が見られる。一人一人の落ち着いた場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や道具、写真などを持ち込んでいただくように進めている。	ソファ・机・イス・テレビ・たんす・写真など、自宅から馴染みの物品を持ち込む利用者は多い。安全かつ住みよい空間となるように、家具の配置を工夫する等環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移転後バリアフリーとなった。新たな施設で、現在環境づくりを進めている最中でもある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200223		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	グループホームいりやあせ (3階ユニット)		
所在地	愛知県名古屋市南区源兵衛町1丁目6番地		
自己評価作成日	令和 2年 8月31日	評価結果市町村受理日	令和 3年 6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2391200223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が、地域社会と繋がりを持って、普通の人と変わらない生活を送ることを理念とし、「地域社会と繋がり、あたりまえの生活ができる場所」と方針を定めている。職員もそれを理解し、行きつけの喫茶店や、古くからの友達との交流など、一人一人の大切な社会との繋がりを、施設で暮らしていても提供することを大切にしている。
昨年度1ユニット7名の施設から、1ユニット9名と移転拡大されたが、移転したからこそそのメリットを生かし、新たな地域との繋がりを、近隣施設を活用したサービスを現在目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月の時点で、職場目標を職員全員で確認し、具体的に一人一人が「業務時間内」にどのように行動するかを決定し、期首・中間・期末で面接を行い振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区のお祭りへ参加したり、散歩・買い物・美容院などに出掛けることで、地域とのつながりが持ち続けられるような支援をしている。地域との交流企画も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所が集まり、地域の住民に向けて発表会をするなど認知症の理解が進むよう行動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行なっている。移転してから、幅広い方に来ていただくことは課題として残っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の移転を昨年度2月に行った。その際、一から市町村と施設の見直しを行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3ヵ月に1度開催している。これも身体拘束にあたるのかなど、より良いサービスを目指し、検討をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年2回虐待の学習会を行うと共に、身体拘束適正化委員会で、虐待についても毎回検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習をしている。今後必要になる可能性のある方、そのご家族様には、管理者より助言している。時には法人弁護士に介入して頂くときもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの場を持ち、理解しあった上で契約、終了書を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便り、面会時に日頃の様子を伝えることで、意見や要望が出てくるため、フロア会議や職員会議にて情報共有・反映させている。また、ご意見箱を設置し、意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・職員会議などで、提案討議する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が年3回の面談を実施している。必要者については、適宜機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習会については、参加を呼びかけるなど、学びあえるような雰囲気作りを心がけている。また、個々の力量に応じた研修に参加できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の介護職の交流会や症例発表、介護の実習生の受け入れなどを行なっている。また経験に応じた研修制度がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時は、家族だけでなく本人にも来ていただきどんな場所か知っていただくようにしている。入所時は、環境の変化に戸惑いも多いので、面会や家族との電話機会を多めに取り、安心できるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもアセスメントを記入してもらったり、面談時の要望などをケアに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前申込時に、現在の状況を把握する事に努め、他のサービスが適切と判断できた場合は、他のサービスの説明を行なうなど、本人・家族にとって最良の選択ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や、風習など利用者から学ぶことも多い。レクや行事は、要望を聞きながら職員も一緒に楽しめるような計画を立てている。A DLが低下してきた利用者様にも役割を実感してもらえるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話などで出来るだけ近況をこまめに伝えるようにしている。状況に応じて、カンファレンスを開いたり訪問の依頼などもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に友人と喫茶店に行ったり、今までの関係が維持できるよう支援している。ご家族様・ご友人など、ご本人様のより良い生活の為に、多様な人々に支援して頂けるよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動や行事の中で、利用者同士が協力し合ったりする機会は大切にしているし、職員もきっかけが作れるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームから特別に働きかけはしていないが、入院の為退去した方が、再申し込みをしてくださったり、退去後にホームでの生活の写真が欲しいと、家族が足を運んでくださり近況を伺ったりした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各スタッフが、日常の会話の中から思いや希望を引き出している。フロア会議では、利用者様のより良い生活の為の情報交換、決定ができています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りや、ホームでの生活の中で把握できたことなど記録に残している。アセスメント用紙も定期的に見直しを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌経過記録や、申し送りノート、ケアプランを活用し職員全員が把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人からの聞き取りや、生活の中から情報を収集し、スタッフ間で話し合う機会を持っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を表情や言葉など細かく観察して記録に残すようにしている。フロア会議でケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険を活用し、訪問マッサージを活用、歯科往診を活用するなど、介護保険外のサービスも活用し、利用者様の生活を支えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や町内祭りなどに参加するだけでなく、地域の組合員や、地域の喫茶店などを活用し、新しいつながりを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について説明し、納得の上で主治医についてはホームのかかりつけ医に変更してもらっている。眼科などはそれまで通っていた所へ、通い続けられるような支援もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションみなみとの連携により24時間訪問看護を受けられる。週1回の定期訪問がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に提携病院があり、家族とともにカンファレンスに参加できるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をとることで、看取りが可能になった。今までで5例の看取りを行った。法人で共有の看取りの指針もでき、訪問看護と連携し学習会を行なうなど、強化にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を明確にした。その他事故発生時の医療連携についても、マニュアルを整備し、実行してもらっている。急変時の対応は、訪問看護の学習会で毎年行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。移転後新に津波避難ビルの指定を行った。地域住民を交えての避難訓練を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。ともに目指す介護理念にもうたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ思いを引き出すような努力はしている。外出の希望など、すぐに対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など大体の時間が決まっているだけで、その他は利用者が主体となって生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や、訪問理容だけではなく好みの美容院にいけるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから、調理、後片付けまで毎食一緒に行っている。できない利用者様でも、目の前で調理するなど、生活の雰囲気を楽しんで貰えるよう努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙を活用し、水分量や食事量を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理や、歯磨きの促しをしている。定期的に歯科往診を受け入れたり、必要時に歯科受診を行うなどしている。毎月歯科との連携を開始し、職員の口腔ケアの質も評価できるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄でのトラブルがあれば、排泄チェックをしてパターンを把握したり、話し合う機会をつくり、対策を考える。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本人確認や、お腹の張り具合などを確認している。状況に応じて、水分摂取の促しや、便通に良い食べ物の提供、ケアプランへの反映などを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は午後に定着しているが、それぞれの時間や曜日は特に決めておらず、毎日入浴をしてもらう事が出来る。必要な方には、見守りや介助を行う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤の巡視は、嫌がる方には回数を減らすなど柔軟に対応して、安眠を妨げないようにしている。日中でも利用者様の様子を見て休息を促すなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに閉して、用法や副作用などを確認できるようにしている。また薬の変更があれば必ず申し送りを行い、様子観察に努めている。 内服方法も検討し、必要であれば医師・薬剤師に報告し対応してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが得意なことを中心に役割りが持てるような支援をしている。日々の活動や外出などの行事のほか、お墓参りなど、個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロア全体での外出機会や毎日の散歩に加え、個別での外出レクで日帰り旅行や、ご家族様も交えての1泊旅行なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はしてもらっている。職員管理の方でも、支払いの時は本人にさせていただくなど、状況にあわせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいたり、手紙や年賀状を出すような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に花を飾ったりベランダや中庭に、花や農作物を植えたりと季節感を取り入れたりと、居心地が良くなるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でも、スペースが十分確保されており、自分の好きな場所に、自由に移動している姿が見られる。一人一人の落ち着く場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や道具、写真などを持ち込んでいただくように進めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移転後バリアフリーとなった。新たな施設で、現在環境づくりを進めている最中でもある。		